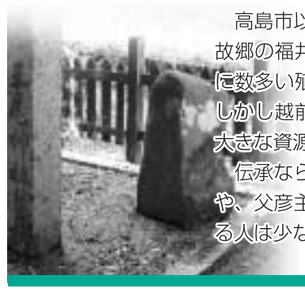
寄稿 注目したい生誕地の記念事業

高橋　徹（歴史ジャーナリスト、枚方・樟葉宮歴史懇話会副会長）

継体天皇の即位1500年を記念した事業が、高島市でも計画されていると聞いた。地方の王だった継体天皇が、請われて即位したのが58歳。生い立ちを知る史料は少なく、邪馬台国の女王・卑弥呼に並ぶ謎多き古代のリーダーで、関心を持つ古代史ファンは多い。その乏しい記録からみても、高島市での生誕は疑いない。由緒ある地での催しだけに期待も大きい。

高島市以外で事業を企画しているのは、即位の地、枚方市と母・振媛の故郷の福井県。『日本書紀』によれば幼少期に越前に移っているが、同県に数多い殖産興業のリーダーやロマンスの主人公説は伝承によるものだ。しかし越前市や坂井市などは、それを大切にしており、「まちおこし」の大きな資源になっている。

伝承なら本市安曇川町には「胞衣塚」、振媛が出産した際の「もたれ石」や、父彦主人王の墓などゆかりの場所がある。残念ながら、市民以外で知る人は少なく、これらをどのように広め、活用していくのか楽しみだ。



継体天皇伝承地を歩く

❶ 三重生神社（みおうじんじゃ）

三重生神社は、継体天皇の両親である彦主人王と振媛を祭神とする古社。毎年４月29日の大祭は「うしの祭」と呼ばれている。

❷ もたれ石（もたれいし）

三尾神社旧址にある「もたれ石」は、振媛が継体天皇を出産する時にもたれたとされている。今も安産祈願に妊婦が訪れる。

❸ 彦主人王御陵（ひこうしおうごりょう）

通称「田中王塚」といい、継体天皇の父・彦主人王の墓と伝える宮内庁管轄の陵墓参考地。直径約58メートルの二段築成の帆立貝式古墳であるが、もともとは円墳だったと推定される。築造時期は出土埴輪から５世紀後半にあたり、彦主人王の活躍していた時代と一致する。

❹ 神代文字碑（じんだいもじひ）

安閑（あんかん）神社の近くにある花崗岩大石で、絵画とも文字とも判別のつかないものが刻まれている。古くから「神代文字の石」として伝承されてきた。

❺ 胞衣塚（えなづか）

三尾里集落の南、平地に築かれた円墳。６世紀の築造と推定される。「胞衣」とは、胎盤のことで継体天皇が出産された際の胞衣を、ここに埋めたという伝説が残されている。古墳の上に生えている松は「ごんでんの松」と呼ばれている。また胞衣塚のすぐ南を流れている川を「御殿川」、付近の小字名を「上御殿」「下御殿」といい、継続天皇に、まつわる伝承で満ちあふれている。

❻ 鴨稲荷山古墳（かもいなりやまこふん）

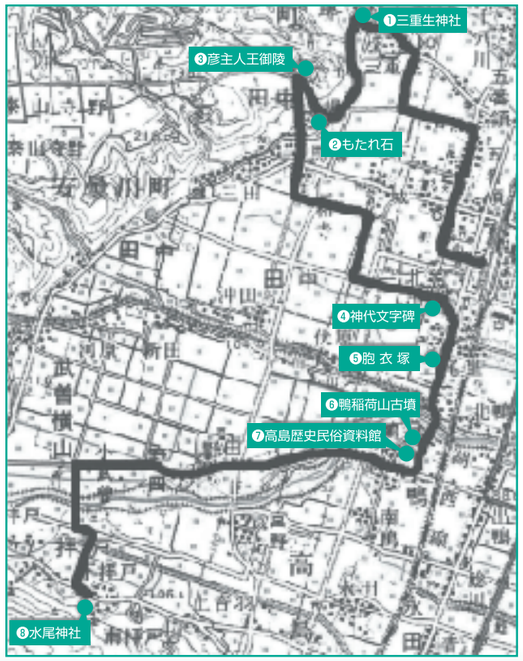
明治35年（1902）に県道改修工事の際、発見された未盗掘墳。全長60ｍの周濠を有する前方後円墳。後円部には横穴式石室が構築され大きな家形石棺が納められていた。副葬品には、金銅冠・飾履・金製耳飾・環頭大刀など数多くの遺物が納められていた。被葬者は６世紀代の貴人で継体天皇を擁立した近江三尾氏の族長と推定。

❼ 高島歴史民俗資料館（たかしまれきしみんぞくしりょうかん）

華麗な副葬品が出土したことで知られる、鴨稲荷山古墳の南150ｍのところに、高島の歴史・民俗・考古資料を収蔵展示している。

❽ 水尾神社（みおじんじゃ）

水尾神社の御祭神は河南（こうなみ）社が第11代垂仁天皇の第10皇子磐衝別命、河北（こうほく）社は第26代継体天皇の母振媛命である。磐衝別命（いわつくわけのみこと）は古代三尾氏族の祖先神である。



水谷千秋氏による
「謎の大王 継体天皇を探る」 高島古代史連続講座

神代文字碑

- **第１講**　『継体天皇と日本の古代』
  平成19年１月21日（日）
- **第２講**　『継体天皇と古代高島』
  平成19年２月24日（土）
- **第３講**　『継体天皇とその時代』
  平成19年３月25日（日）

■ **講演時間**　14時～16時（各講とも）
■ **場　　所**　安曇川公民館　ふじのきホール
　☎（32）0003
■ **そ の 他**　聴講無料・定員200人

【講師紹介】

◆水谷千秋（みずたに　ちあき）氏

・1962年、滋賀県大津市生まれ
・龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得（国史学）
・現在、龍谷大学非常勤講師
・日本古代史、日本文化史専攻

著書に「女帝と譲位の古代史」「謎の豪族蘇我氏」「謎の大王継体天皇」（ともに文春新書）、「継体天皇と古代の王権」「継体大王とその時代（共著）」（ともに和泉書院）がある。

【お問い合わせ】

高島市教育委員会事務局　文化財課
〒520-1292　高島市安曇川町田中455番地
☎（32）4467　FAX（32）3568
Eメール bunkazai@city.takashima.shiga.jp

継体天皇生誕地によせて

水谷千秋（文学博士・龍谷大学非常勤講師）

六世紀初めに即位したオホド王、すなわち継体天皇は、応神天皇から五代目にあたる遠い傍系王族の出身でしたが、いったん途絶えかけた王統の危機を救うなど、古代史上重要な役割を果たした天皇として知られています。この継体天皇の生まれ故郷が、現在の滋賀県高島市～近江国高島郡三尾～です。

『日本書紀』によると、この地に住んでいた父・彦主人王が、越前三国から妻・振媛を迎えて生まれたのが、継体天皇でした。その後、継体天皇は、近江・越前・美濃・尾張などの豪族と手を結び、琵琶湖から淀川・木津川流域の水上交易を握るようになりました。こうして得た経済力が評価され、即位につながったものとみられています。現在高島市にある田中王塚古墳は彦主人王の墓といわれ、鴨稲荷山古墳も継体と親しい間柄の人物の墓と考えられています。市内各地には継体天皇ゆかりの史跡が点在し、多くの歴史ファンが訪れています。

本年2007年は、継体天皇が即位した507年からちょうど1500年にあたる記念の年です。またとないこの年が、高島の古代を学び、文化財の大切さをあらためて実感する機会となれば幸いです。